（７）人権教育研究会

会　長　宮川　成也（東山小）
副会長　弘瀬　利英（大用小）
事務局　白木　勝也（西土佐中）

１．研究主題　　「人権教育における授業の創造」

２．研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和５年５月９日（金）	四万十市教育研究会　組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	中村中学校	14 名参加
8 月 22 日（火）	四万十市教育研究会　夏季研修会 〇研修会（講義） ・内容「性自認（LGBT 等）に関わる授業実践について」 ・講師　坂本　和恵　指導主事（高知県教育委員会　人権教育・児童生徒課）	東山小学校	9 名参加

３．活動内容

夏季研修会〈8 月 22 日（火）〉

〇研修会（講義）
・内容「性自認（LGBT 等）に関わる授業実践について」
・講師　坂本　和恵　指導主事（高知県教育委員会　人権教育・児童生徒課）

（１）多様な性について
・「性」を考える４つの視点　①体の性　②心の性　③好きになる性　④表現する性
・性的マイノリティは約１０%いる。
・SOGI（Sexual Orientation　&　Gender Identity）人はそれぞれの性的指向と性自認を持つため、お互いにそれを尊重していこうという考え。

（２）性的マイノリティをめぐる現状
・当事者たちの約 57%は性別違和を小学校入学前に自覚し始めた。
・「自分の周りにはいない」のではなく、本人が言えない・言わないため自分が「気づいてない」ことがある。
・LGBTQ 当事者が「学校には自分にとって安心できる場所がある」や「自分にはいざというときに力になってくれる友人や先生がいる」と感じる割合は非当事者に比べて低い。
・マイノリティであることや自分自身への偏見や差別によって、自己受容が困難であったり、孤立感・自己否定感を感じたりしている。

（３）だれもが安心して学べる学校・学級づくり
・平成 27 年「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」を発出
→服装、髪形、更衣室、トイレ、呼称の工夫、授業、水泳、運動部の活動、修学旅行等
・令和５年「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」の成立、施行

・高知県の県民に身近な１１の人権課題に「性的指向・性自認」も含まれる。
・2023 年 7 月現在、高知県で女子スラックスを採用している（採用予定の）中学校が 52 校、高校が 26 校。
・学校での取り組み例
〇教職員間で多様な性について共通認識を図る。
〇性的マイノリティの児童生徒がいることを前提とした言動と環境整備。
〇教職員間で児童生徒の見守り、情報共有。
〇日常的に多様な性について肯定的なメッセージを発信し、正しい知識を伝える。
〇からかいや差別的言動はそのままにしない。
・教育活動全体を通した人権学習の推進のために、小中で連携していく。

４．今年度の成果と課題

昨今ニュースにもよく取り上げられる「性的指向・性自認」についての講義を聞くことができた。教育現場にも大きく関わることであり、当事者たちがどのように感じながら学校生活を送っていたか、いつから性別違和を感じ始めたのかを知り、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるように教職員がするべき配慮や工夫を学ぶことができた。また、教員ですらまだまだ「性的指向・性自認」に関する知識が浅いということがよくわかった。まずは、教職員間で多様な性について共通認識を図り、当事者がいることを前提にして変えられるものは変えていく必要がある。しかし、教職員だけの関わりだけでなく、児童・生徒同士の関わりも大きく関係してくるため、人権学習の中でどのようにして児童・生徒自身に「性的マイノリティ」に関する人権課題を学ばせていくことがよいのかを協議し合う機会を設けることがさらに必要である。